

2003年10月27日(月)

発行：菅生中学校区地域教育会議

編集：情報委員会

当番校：菅生中学校 TEL 977-8787

事務局：コミュニティサポートネット内

TEL 979-1303 FAX 979-1304

http://isweb43.infoseek.co.jp/school/sugao_ky/ E-mail: csn@ha.bekkoame.ne.jp

新体制でスタート

意気込みも新たに、いざ出航！



3年にわたる大改革の末やっと生み出した新規約のもと、新たな地域教育会議がスタートしました。運営委員会の前には勉強会を開き、後には特別検討会議を召集。寸暇を惜しむ熱の入れようです。話し合いの席では次から次へと意見やらプランやらが飛び出し、動き始めた地域教育会議の姿を象徴しています。再編成された3つの委員会は今、『地域でわれわれがやるべきこと』を何としてもやりとおすのだと熱く燃えています。そこで各委員会の意気込みを紹介しましょう。

生涯学習委員会

「地域住民の潜在力を發揮するとき！」

菅生中学校区は昨年度革新的ともいえる改革を行い規約を全面的に変えました。その規約の前文には、

教育においては、市民自らが、未来のビジョンを描き計画を立て実行していく活力が強く求められます。子どもの教育には家庭・地域・学校などの教育環境があり、大人の教育には家庭・社会などの教育環境が考えられます。それらの環境を力強く豊かにしていくために、親権者である親または保護者・地域住民・教職員など大人である私たち一人ひとりが、これらすべての教育環境と向き合い、創造し次世代を受け継ぐ子どもたちに力強い未来の展望を示すとともに、その実現方法をも提示していく大きな義務と責任があると考えます。

と力強く謳っています。地域住民が主体的にここまで力強く明確に教育を宣言したボランティア団体を私は他に知りません。月に一度開かれる運営委員会では各委員会の活動に対して、忌憚のない意見が出され、ただ教育活動という名前を借りたイベント活動はすでに通用しなくなっています。

今、地域住民は相当大きな潜在力を持っているはずです。はずという推定を確信に替えることができれば必ず問題は解決できることを、そろそろこの地域教育会議が証明しなければいけない時期に来ているのではないかと思っています。

青少年にとって携帯電話とは…子どもにとって携帯電話は命の次に大切なものの？

子ども犯罪の予兆とは…後付でない先付けの予兆（サイン）ってなんだ？

教員の質の低下…子どもの学力の低下の原因が教師にあったらあなたは怒りますよね？

生涯学習委員会では上記の中から一つを取り上げ研究材料としてのシンポジウムを来春計画しています。「なるほど、わかった」と本気になる提案をします。ご期待ください。

生涯学習委員長 工藤文比古

地域教育学習委員会

「輝かそう親も子も わが生命の太陽を！」

「地域教育会議ってなあに？」と問い合わせながら、新メンバーと勉強を進めています。

週休2日制になり、先生も生徒もかえってゆとりがなくなったように思います。現実に、毎日子どもに接している学校の先生は、なお感じているのではないでしょうか。だからこそ今、子どもに対する地域の教育力がより大切なではないでしょうか。子ども会の役員さんも時間を作り、わが子を見ながら活動に励んでいます。子どもたちの少年野球、サッカー、バレーボール、卓球等々。監督コーチの、教育力にかかっています！この仕事も力のいることです。学校ではわくわくプラザが始まり、指導者も手さぐりの中、がんばっています。現実社会の中で、トップに立つ人々の生き様が、何人の子どもたちの目を輝かせることができるのか…

今、青少年、子どもたちが毎日のように、事件に巻き込まれ、被害者も加害者も、親も子も深い悲しみの中で過ごしています。「誰がささえ手になるのか？」このような事件がおきない、おこさない地域でありたい。

「始めよう大人たちの朝のあいさつ。優しい心。優しい目。優しい言葉かけを！」変わり始めた学校教育現場、地域社会、家庭、三者の統合力で21世紀の未来ある子どもたちに心の太陽を輝かせることのできる、力強いエネルギーを贈ることのできる地域教育学習委員会でありたいと思います。

大人たちや子どもたちの人権を大切にしながら…

地域教育学習委員長 古川ツグ子

子どもが育つ地域社会

学校と地域の共同・協同
講師 佐藤 一子氏



子育てを語り合える場に

東大的学生たちと 7~8 年前から川崎の地域や学校の様子について見てきました。また、川崎市生涯学習推進懇談会の座長を務めたり、教育十力年計画の策定にも関わっています。そこで川崎の地域教育会議を、社会教育の立場から見てどのように思っているかをお話します。

生涯学習の視点から、学校と地域がどのように連携していくのかという点で、こちらの規約の前文に書かれた「大人がビジョンを持たないといけない」「地域と子育てにしっかりと責任を持っていこう」というところに、皆様の決心のようなものが表れていると思いました。やはり、一番大事なことは、一人ひとりの持つ力はとても小さいけれど、小さい力を寄せ合い、語り合うことだと思います。それが「人間が生きる」ということの根本的な意味だと思うからです。

私は、一人の子どもを育てるなかで保育園、学童保育、小学校の PTA 役員を経験しました。父母会ではいろいろな問題をめぐって、喧々諤々やり合ったこともありました。しかし、この 10 年間の教育環境の変化はすさまじく、「昔はこうだった」ということが通用しなくなっています。そのため、教員自身も日々とても疲れている感じます。小学校や中学校それぞれで起きている問題だけに対応してはとても大変で、子どもは 0 歳から 20 歳くらいまでを、社会が抱える発達の流れの中で見守っていかなければいけないと思います。そして、一人ひとりはみんな不安であったり、子育てに自信がなくなっていたりと。そういう思いを語り合える、コミュニケーションがとれる場がきちんとつくられている、川崎の地域教育会議を大事にしていただきたいと思います。この菅生のように、もう一度原点に返ってみようと議論を起こされたことは、貴重な反省の時期を過ごされたと思います。

子育ての文化・知恵を育てる

地域というのは、学童保育や PTA のような機能的集団と違って、すごく多様な

考え方を持った人たちが、ただそこに住んでいるということだけの、共通項の無いものです。しかし、そこから逃げることができないのが地域というもの。いろんな家庭の考え方の異なる親がいる中で、地域で話し合い、子どもを見つめる目を養ったり、子どものいい面も悪い面も含めて、受け止めていかれるよう、親自身も異年齢で、いろんな立場の人間の経験をさまざまな視点から持ち寄ることで、子育ての文化・知恵というものの成長の場となる、そういう地域が大事だと思います。

地域の教育資源を活用

昔は学校に依存した評価で子どもを見ていたと思いますが、さまざまな人たちの眼やふれあいという開かれられた関係の中で、いつの間にか解消されていくことがあります。でも、今の若いあ母さんたちは、非常に子育て不安が大きく、コミュニケーションが苦手なために、この解消がなされていないように感じます。小学校の高学年くらいから、ものすごい情報化社会の中に取り込まれ、「情報」という言葉に踊らされ、社会の中で欲望を限りなく刺激されていて、最近の若者は、「我慢がまったくできない」「基本的のあいさつができるない」と言われています。社会教育の視点から見ても、限りなく 24 時間営業に近づいたサービス産業構造の中で、若者や中高校生がともに育つと考えることがおかしいことで、教育の壁と環境というものが社会全体の中で、退廃とまではいかないけれど、教育する上で困難な環境になっています。しかし、体験学習などで、子どもたちはびっくりするほど変わると言います。地域というのは、多様な多くの人材・団体、歴史的にいろいろなネットワークが蓄積しているところだから、それを教育資源として学校を核にしながら活用していくないと、子どもは育てられないのではないかでしょうか。「いまさら地域なんて」という反応もありますが、伝統としてあるものを地域として捉えるのではなく、少しずつ知恵と力を出して作るものとして、「地域の教育力」をつけなければいけません。

地域教育会議の意義を問い合わせる

川崎も決して革新的な人が多いというわけではなく、たまたま十数年前の金属バットの事件をきっかけにしてできたのが、この「地域教育会議」で、それも何とか維持してこれたのは、核になってがんばっている人がいたから、ここまで続いたのだと思います。ただ、マンネリ化を感じるし、財政の見直しなどで、地域教育会議の存続にも不安があると思います。その中で地域教育会議がなくてはならないという意義を住民がどれだけ訴えているか、そして学校サイドからも地域という視点を持つことの大切さを認識していただきたいと思います。総合的学習とかコミュニティールームの取り組みなどは、地域教育会議があることで、進んだ経験が積まれていると思いますし、学校だけで把握することが大変なことで、地域教育会議のネットワークを使うことで、学校も恩恵を受けることができます。

大人と子どものつながりの場

次に、川崎市の地域教育会議の今後に向けてということでお話しします。今、市民局が「わくわくプラザ」や「こども文化センター」を所管しております。わくわくプラザは小学校を使って、川崎市ボランティア協会の運営委託と、非常勤職員の配置で進めています。一方では、学校開放の運営委員会、PTA、地域教育会議の存在があり、行政の所管をどう連携させていくかということが、大事なテーマになっています。単に市民局と教育委員会の統合ではなく、連携を持って行くということ、地域レベルでの統合が必要となってくると思います。

地域教育会議というのは、社会教育の場、生涯学習的な場の機能を持たなければいけません。そして大人の学びの場、大人と子どもを結びつけていく場としても非常に重要です。学校施設を自由に使えるような整備や、生涯学習の拠点としての役割を果たすために、学社連携といふ軸で考えていかなければいけません。

教育政策への住民参加を

もう一つ疑問に思うことは、行政区と中学校区とが、地域教育会議の中であまり明確な機能的役割分担をしていないことです。行政区で委員をしている人が中学校区でも委員をしています。本来行政区は、それぞれ性質も地域性も違うのだから、もっと住民参加の政策という、教育政策への参加機能を分権的を持つべきだと思います。それに対して、中学校区では、審議機能も大事だけれど、さまざまな活動に参加し実行していく単位といふ性格を持つべきだと思います。

若者たちへのケアをどうする

現在、失業率は、5 % と出ていますが、20 歳代の若者で見ると、15 % くらいになっています。「地域にたどろっている若者をどうするか」という大きな問題、学校を離れた若者たちを地域全体で支えていく必要性を考えることも地域教育会議に求められてくると思います。地域教育会議は非常に素朴なところで意見を出し合える懇談会です。財政的な面で先細つていく中で、どうしたらみんなが、集まり懇談するという機能と、少人数でもきちんとした仕事ができるかということが、地域に問われることになると思います。だれでも参加できる懇談会機能をベースとしていく参加の場でありつつ、事業を担っていく場としてどう統一していくかが、この菅生地域に期待されることだと思います。

やはり、「子どもは地域で育つ」という子育ての大原則は、どんなに世の中が変わっても大原則は変わりません。皆さんの知恵と力と多くの討論から生み出した地域教育会議の経験を生かし、これから教育生活にさまざまなアイディアが盛り込んでいかれる、そんな方向性の経験と夢を語り合ひながら担っていただきたいと思います。菅生中学校区地域教育会議のサポーターとして教育十力年計画の委員をしながら、応援歌を送っていきたいと思います。

子ども会議検討委員会発足

全市で行われている各地域教育会議主催の子ども会議について、菅生ではどのようにして、子どもの声を聞き、地域や学校、家庭でどう教育に生かしていくのかを検討することになりました。

検討委員会は運営委員会の特別委員会に位置づけられます。メンバーは運営委員会・各委員会から 1 名、各学校から 1 名ずつの構成になります。委員長は地域教育学習委員会の古川さんで決まりました。

10 月 6 日に初めての委員会を開きました。まず、子どもたちと大人の信頼関係を築くために、子どもたちの学習面などをフォローするシステムを地域でつくり、その活動を進めながら、子どもたち主体の活動を実現したり、子どもたちの本音を聞いていくことができるのではないかといった話し合いになりました。まさに、佐藤一子先生の「子どもが育つ地域社会」を実現する可能性がひらけるかもしれませんね。これから動きをお楽しみに。



学習会に参加しませんか

運営委員会では、メンバーそれぞれがさまざまな場所で学習していることや、日ごろ気になることなどを、情報提供していくうと、運営委員会開始 30 分前の 30 分を学習会にあてるようになりました。11 月 25 日（午後 6 時 30 分～7 時）は、川崎市教育委員会主催の「21 研」（21 世紀の川崎の教育を創造する研究会）からの報告があります。12 月は学校図書館の現状と課題についてです。参加してみたいと思う方は事務局までご連絡ください。

地域情報

子育て広場って知ってる？

子育て広場すがお

感敷交差点にある菅生郵便局お隣に、「子育て広場すがお」がオープンしました。小学校へあがる前のお子さんが保護者と一緒に遊べる場です。子育て仲間に出会えたり、お友達ができたり、子育ての悩み相談にのものってもらえます。お楽しみタイム（水曜日）や講演会なども開催されます。

毎日、大勢の方が遊びに来ているそうです。ぜひ、お子さんと一緒に遊びに行ってみてください。

開所日時 月～金 9：00～16：30

（祝・年末年始等を除く）

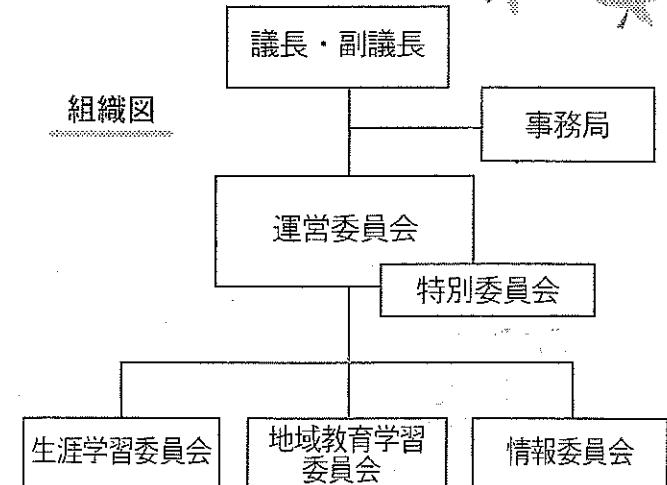
無料

問合せ TEL 044-977-2051

平成 15 年度

菅生中学校区地域教育会議委員

組織図



議長	芝原 尚子 (住)
副議長	根本 俊隆 (自)
	菅野 礼子 (P)
事務局長	生駒 みを (住)
会計	望月 優子 (住)
局員	永野 直樹 (菅生中学校) 芝原 尚子 (住)

	生涯学習委員会	地域教育学習委員会	情報委員会
委員長	工藤 文比古 (住)	古川 ツグ子 (子)	望月 優子 (住)
副委員長	伊藤 千代子 (住)	瓜田 育美 (P)	高木 由美子 (住)
会計	山田 千鶴 (P)	中村 一恵 (P)	大川 由美 (P)
	石井 明彦 (P)	花谷 佐智子 (P)	細田 千夏 (P)
	川口 尊志 (自)	丸山 量子 (子)	七浦 美知子 (住)
	秋山 浩 (P)	服部 征男 (防)	峯岸 恵子 (住)
	中村 康人 (分館)	新井 通夫 (防)	
		菅野 輝夫 (青)	
		尾高 久男 (青)	

住：住民 P：PTA 子：子ども会 自：自治会 防：自治会防犯 青：青少年指導員

非選出委員

菅生中学校	菅生小学校	稗原小学校	市民館・こども文化センター
校長 対馬 醇一	校長 田中 憲生	校長 宮内 瑠	宮前市民館菅生分館主査 中村 康人
教頭 二村 俊光	教諭 相楽 清孝	教諭 星野 和生	菅生こども文化センター館長 茂木 操
教諭 永野 直樹	教諭 今吉 純一	教諭 菅原 節子 卯木 昌史	蕨敷こども文化センター館長 田原 久太郎

情報委員会

「地域の情報基地に !!」



再生した「地域教育会議」の中で広報委員会という聞きなれた名前から「情報委員会」と改めました。今までの広報紙は、少ない紙面に、凝縮された多様な内容を伝えるために、多少難解なところがあったかもしれません。「地域教育会議」自体、特別な人たちの特別な活動と思われがちでした。

だれにでも わかる 地域教育会議
だれもが 参加できる 地域教育会議

そんな新生地域教育会議を、ひとりでも多くの人たちに理解してもらえるように、参加してもらえるように、それぞれの委員会や地域の方々の活動や情報を‘タイムリー’に伝えられるよう、努力していきたいと思います。

今まで読み親しんでいただいた広報紙『とらいあんぐる菅生』のネーミングは変わりません。これまで以上に「楽しく、わかりやすい」をモットーに情報を伝えることを目指します。

広報紙に対しての感想、地域教育会議に対してのご意見・疑問、ぜひお聞かせください。また、いろんな情報もご提供ください。

情報委員長 望月優子